

「新しい」 生き方・働き方のために



講師 古市 憲寿 氏
ふるいち のりとし

11月7日(月)、社会学者であり、テレビなどで若き論客として脚光を浴びている古市憲寿さんを講師に迎え、「女性が働きやすい社会」、「少子化の先に見える社会」についてお話しいただきました。200名ほどの参加者が新しい日本社会への提言に耳を傾けました。

日本が抱える課題

この国の問題点は、高齢者と働く人のバランスが悪いくことです。人口が減るのは問題ではなく、働かない人が増えて働く人が減る。このことが社会構造上たいへん問題となっています。2030年までに労働力人口が約900万人減ると予測されています。

一方で平均寿命も延びており、2007年に生まれた子の二人に一人は107歳まで生きるといいうデータがあります。すごい勢いで少子高齢化が進みます。子どもが増えないと労働力も納税者も減り国が回らなくなります。しかし日本では、少子化問題に限らず、問題の原因が社会構造ではなく、若者の草食化など、人々の意識にあると考える傾向があります。

乳幼児教育の大切さ

『保育園義務教育化』にも書いていますが、いつでも誰もが子どもを保育園に気軽に預けられる環境をつくるのが大事ではないかと思っています。それは働く女性のためだけでなく親の孤立を防ぐという点にもつながります。子どもの虐待は3歳までに起こることが多いというデータもあります。よく言われる3歳まではお母さんが育児をするのが良いという3歳児神話も、高度成長期にできたものです。しかしそのような説は60年代以前には存在せず、育児は家族や村全体でするという考えが常識でした。3歳児神話が作られた60年代当時は力仕事が多く、男性が外で働く時代でしたが、今はサービス業など男女の体力差がない仕事が増えて、共働きも増え、その考えは時代に合わなくなっています。

アメリカの研究で、乳幼児教育の重要性が指摘されています。乳幼児教育を受けなかった子どもは、受けた子どもに比べて、成人後も貧困率や犯罪率などが高い傾向にあり、乳幼児期の教育はその後の人生にも大きな影響を及ぼすことがわかってきています。また、社交性などの非認知能力は5歳までに集団の中でのみ培われるとも言われています。昔の子ども達は近所や親戚といった集団の中で育っていましたが、今はそれが難しくなっていますので、保育園は必要不可欠です。

子育て支援は経済成長につながる

貧困率が高くなると日本の治安が悪くなるだけでなく、福祉制度などに税金がかかってしまします。後から税金がかかるのならば、事前に子どものうちにお金をかける方がよいことが分かっています。

最近、東京オリンピックや大阪万博などが話題です。その中で50年前と同じように経済成長が見込まれるとされている人がいますが、当時は若い人がたくさんいて高齢者は少ない状態だったからこそ経済成長ができたのです。今はどんなに大きなイベントをやっても少子高齢化という構造を変えない限り経済的に豊かになることは難しいと考えます。公共事業より子どもに投資する方が、長期的に意味があるのです。

女性にとって生きやすい社会は 男性にとっても生きやすい社会

オリンピックに希望を抱くなど、昔のおじさん的な考え方が日本には根強いと感じます。単に女性を大事にするということではなく、女性の新しい視点に加わることで社会全体が良くなるというのが、本当の男女共同参画社会だと思います。しかし、現実にはなかなか女性が活躍できるような状況ではありません。

1976年から2011年の間に、働く女性の家事育児時間は7分しか減っていません。また、働



多くの聴講者で会場は埋まりました

子育てをする女性が強いられる 理不尽な状況

昨年『保育園義務教育化』という本を出版しました。日本で子育てをする女性がいかに理不尽な状況に置かれているのかを書いた本です。この背景には、女性が出産後すぐに仕事に復帰すると子どもがかわいそうだと批判を受けるなど、とかく女性だけが育児の責任を背負い、ジェンダー差に苦しんでいると感じたことがあります。

国は、労働力不足を補うため女性にもっと働いてほしい、少子化対策として子どもをもっと産んでほしいと望んでいる一方で、女性が働くとしても保育施設が不足し、待機児童が発生しているのは矛盾した状況です。

社会が大きく変わるには 時間がかかる

男性の家事育児時間は12分しか増えていません。その上、この40年間に働く女性の割合は増えていきます。つまり女性の労働時間が増える一方、家事育児の時間は減らず、結果的に女性にしわ寄せがきているのです。また長時間労働の改善ができず、男性にとっても暮らしやすい国にはなっていません。男女共同参画社会とは、男性も女性もいかに生きやすい社会にするのかという話だと思います。女性にとって生きやすい社会は男性にとっても生きやすい社会だと考えます。

社会の常識や考えが劇的に変わっていくには世代交代しかないと思います。人が途中で考えを変えることはなかなか難しい。時間をかけ世代が変わっていくかなければ変わらないのではなごしょうか。私は悲観的でありながら楽観的にみています。若い世代には十分に男女共同参画の意識が根付き、価値観が変化しているのに、制度が追いついていないのが現状です。あとは制度を変えるだけ。少し時間はかかるかもしれないけど、良い方向へいくと信じています。

少子化の問題は解決するのは難しいことだと思いますが、子どもを安心して産める良質な子育て支援ができれば、日本の未来は良い方向へいくのではないかと思います。